



善知安方忠義傳

二編
壹

13
1305
9



13
1305
9



善知安方中心義傳

松亭金水著
葛飾為齋畫
第二輯五卷

浪華
群玉堂梓

明治三十九年一月二十九日
水谷三郎氏寄贈

松のまくけた



序
凡そ稗史小説の元とて是の物語の物と云ふは、
負載十分記述を古の書に借ふるも、情識宏才
と人の一時の戲墨を味とて初め條を要す、草を
起し、部の結構よりあるまじく或は手か稽と目と用ね
再三に回妙を想ひ脱漏を補ひ、語を新し、竹亭
及復らるるより、作意を専ら新書の執筆に注ぎ、
視之、奇あり、聞人耳を聳て、殊のおも腹を忘まし
春のわらわ春あそび惜む、こゝに佳句あれど、然るに

おこそこの様

千子の玉川

秋小北あとも





近常余が辨身法を固酒の素よりして先帝陛下の
此由他物のもを作するて極えの事神子編て求
先適道正法をよつて竹管の深をせんすれと忽
米槌の軽きより驚き敵て再四すれとわくして腹痛
乃早れを首らふたふ放て漸く一部の句は結ぶらば
佳作といふ所は掃きもや況て性善の或も是を
解し解し厨から子の心も練せんといふ高辭は
此の程はわぬふいふも書辭があらめ使侍は
漢身影も揺る事と偶々短き才をばありの
乃をぬらも畢き竟は口を擲するの権勢と底を
はらひ智恵を囊よりとる事果一物あけぬる久き



勸業懃懃の勤意の外はぬ全朝の美こと
思ひのありしと出来ことと此酒をお賜らば
自傳の使侍はん
平時嘉永二年己酉冬十月忍之屋の
寓居におて
ね平深父人木頭より書



善知第二卷之一
○二





○馬賊
此一個の
豪傑
あり

高純ハ歳
僅に十六歳
万夫不當の勇
あり軍略
兵法を胸憶小
收ひ以あらる
此人前伊豫掾
純友少子なり



○高資ハ弟子
金井荷助
定友

○重太郎
高純
西條高
資ハ
子と
喚向



惻隱の心
仁の端なり
正祿慈善の
者みれども
小人小て道を
北雞晨すの福ふり
嗟時あるま

○新瀉の
莊官浦平

○越後新瀉の
今長者
蟹原屋
正祿



恒の産るるりの恒の
心老無色情小
よつて恒の産を失ふ
竟小故郷を逐電は
悪とて為さるる
積惡道と難うと
果敢かゝる身を
亡くと天誅と
謂つる

陸奥の
醫師
老無
髪を生
安ををえ
越後国
遍登い

○西條
高資が
女児
赤遊



須弥より高き主の恩
忽地忘て其渾家小嬢を

○正禄
後四
深雪

美貌を恃て
身慎まば
奸夫をいそて
娯樂を極め
婦女第一の
禁犯を
且その継子小
邪慳小
人の譏を顧ぞ
氣隨小
因
家を亂
竟小石を
市小曝



五逆の罪も且く隠れん
被ひるん小似とて天
定まらん人小勝負を
その終を克せんや

○今長者
老僕
武久助

○安方
子千代童
正禄が養ひ子と
千代松と號は

よごさぬ
むね
いづれもあは
いづれもあは

信長
高

○正禄
女見
吳竹

善知安方忠義傳第二輯全部五卷總標目

卷第一回

西條高資信州潮平小潛む
知縣使者を立て糸遊を娶んとす

壹第二回

知縣荒磯西條父子を怒む
潮の山中小三士狼を斬す

卷第三回

鵬を討て重太郎禍を醸す
走卒をゆる高資知縣へ赴く

貳第四回

勇を奮て重太郎馬賊と戦ふ
知縣の奸謀英雄を陥す

卷第五回

荷助糸遊を將て上野へ走す
高純睡中小歡樂を夢ゆ

三第六回

師恩を報んと里見知縣を開す
老命を捨て高資重太郎を走す

卷第七回

今長者正祿絲女深雪を娶す
高野非事理千代童と今長者小託す

四第八回

遊崎小糸遊危難小遭ふ
情慾を逞しく娼婦奸夫を討く

卷第九回

糸遊勾引さきて鴉足の郷小至す
正祿浦平圖らば老熊を捕ふ

五第十回

火筋を飛して千代松胡蝶を貫く
千代松老熊を討て孝養小備ふ

通計十回二十條總標目畢

○醒醒齋山東翁京傳の博學強記せつせつふあてきあぐの古書を涉獵平生小戲墨あまうと
 りて樂みとて著るを所ところの書とも多かる中なか小六の善知物語ういふハかの翁陸奥人
 の口碑くちひ小残せうぜんとて教う故事こと故こ史しがましく十符じふの管薦くだり七しちふるを三さんふるを
 けり糸いとれれふふかかままのけり水みづぶぶ記きのああをを流ながりりててここままががひひししままの
 物語ものがたりぶぶととありありぬ序言ちりげきも記あ記きされれてその肺肝たのけんより練うせせししるる妙業めうごふそれハ
 當時そのときいいと愛あいしたたのふりりててああされれるも僕わがままが四十餘年よんじゆねんの昔むかしとちりぬ
 頼たの小こ后ご編へんの著述ちやくぶつももちりりるるささととつつあるるゆゆりりや彼翁あつうも辞世じよせぬと猶櫻木なつかさくぎの
 彫板てうばんも朽くむ年々としとしふふ北きた咲さをを汲ひりりててれれ嗣編しゆへんののちちるるををと人ひともいいひひままて版
 元もとなる書肆しよせいも思おもふの餘あま里よ余よににららの編へんを綴つれれととりり元來もとより不才ふさいに
 ちちかかの佳作けさくの後あとを嗣つべき器う器ぐふふりりぬぬと自知しちぢしてして否いなめと許ゆるささばば是非ぜいひなくなくを
 酉うの年とし竟つひの草案さうあの功こうと畢ひぬ

金水再識

善知安方忠義傳第二輯卷之一



東都

松亭金水編次

第二回

西條高資信州潮平小潜む
 知縣使者とて示遊と娶んを

皇國の六拾六劫寒

そと天地てんちの覆載ふくさいせる萬邦異域ばんぱういよくののいいちちちちちち
 暑節あませつと失あははるる深山幽谷せんざんゆうこくの隈くまととままでで月日つきひの照てりりああののいいちちちち
 雲泥うんぬい万里ばんりの差さひひありありもああららむむ住すむむののいいちちちち
 仲春ちゆうしゆんの初茄子しよしよじ雪中しゆちゆうの筆ふでハ人ひと敢あてて珍ちんとせせびび狐裘こしゆハ藝ぎの服ふくとと虎豹こへう
 虬虎しゆこの茵蔯いんぢやうハ平人へいじんども用もち由よしなるるべべしし郡ぐんの住居すまわの表裏うらうらハハ春はる

耕一夏ハ耘里。秋ハ収刈三時の刃粒と己ガ辛苦せ。米ども隈小詮とるく。
 粟稗より平生の食ら。藜とる妻が子織の粗布とりて味ころ。夕顔
 棚の下凍。夫にてら妻ハ二布。米売らちと一蚊。蚊火の煙に終て末のるも。
 臂小暇る。反古團扇冬ハ圍炉。狸小高胡坐。峯の枯枝林の落葉。焚て夜を
 凌げども。壁の壊れと吹入。風と防ぐ小淋。多くて。蘇小楚と下。うの系童が戯
 小。造り。狗の小屋小似て。るるいせ。そのの。大慶高。精小。身と安て常小
 心神と痛むる。緒句信らる。ゆありるん。物との不自由。壁言ふ
 小りのも。る。る。中小信濃の必。潮平といふ所。山ま。山の半腹。水田
 といふの。あ。ご。ご。ご。稲米と作は。といふ。る。る。る。自田さ。いと少。る。く。粟稗
 小。心小任せ。山。小。小。い。さ。りの。自。田。ち。ち。ち。と。蘿蔔と。柱。と。と。常の食と。あ。い。
 かる邊部小あり。る。る。土地の人の。武と。な。く。月侍日侍の會合。あ。い。米。と。

たり角力と。り。或ひハ。劍汰の煩。苦。う。ち。月小。若。く。夜の。射。只管。武。と。を
 ねむの。や。あり。以。あ。る。る。る。の。不。小。一。人の。浪。客。あり。その。名。と。西。條。九。郎。高。資。とい。ふ。
 元。と。い。つ。も。小。仕。え。や。その。指。め。と。ある。者。る。け。き。と。年。と。や。耳。順。の。う。人。と。死。
 て。頭。小。城。の。雪。とい。ま。さ。額。小。田。子。の。浪。の。あ。せて。も。形。少。の。他。ね。壯。健。あ。て。兵法
 武。畧。不。暗。く。と。天。晴。一。方。の。大。將。と。奉。は。と。も。心。く。ね。其。人。あ。い。あ。り。あ。る。る。
 十。年。ゆ。り。先。の。年。より。隱。遁。と。こ。小。住。と。妻。の。世。と。去。て。二。人。の。見。あり。柿。と。系。柱
 と。い。ひ。て。十。八。歳。弟。と。重。太。郎。と。呼。び。て。る。年。ハ。十。六。歳。あ。る。ま。う。ら。る。九。郎。高。資
 の。その。指。め。い。ま。ご。推。と。二。人。の。見。と。携。へ。て。こ。へ。あ。り。う。と。武。門。の。果。を。活。業。の。
 術。と。も。後。の。ま。を。と。の。若。者。等。と。括。さ。集。め。系。術。劍。術。と。教。え。る。ど。し。て。その。印。く
 と。管。む。わ。ど。小。若。者。等。い。と。珍。ら。し。き。る。小。若。ひ。て。是。が。門。中。あ。る。ん。とい。ふ。の
 い。と。ま。く。夫。より。稍。小。その。名。吹。え。て。五。里。七。里。の。ま。を。方。ら。り。も。身。終。末。有。後。小。い。と

まぐ夏冬野菜の出來初穂米麥さへも贈るりの。諺ふいふ藝の列を助くる
の能ありて結句安らふ小世と送り侍とあり小十年磨りの春秋と終る秘小
まぐいといひけるるる。女兒糸花の十八歳を容貌のさうおもひいひ心業も人
小勝で織針より織紡をてて女子のも業をいひめどといふりるるをいひ
拙みりる。父が平生と弟子も小教のりて見て自も。太刀技術もいひて鄙
ゆの掃る處女もいひ。其の豪富彼処の莊官便と索めて縁をといひい
の鮮るる。松と高資のいふこと許さひい元小おまを朝夕の薪炊のりる
ど賄いせ老の樂とといふあり。弟重太郎の年小似お。その丈五尺有餘ありて
骨逞まうく眼中大く柔術劍術のいふも更あり。常小弓射るくと好くと
いさりの暇あまら弓矢携へて山へゆ。猪獾狐狸のさひ或ひの山鳥雉子を
ど。その時々の獲物と未食で。惡布巖石とをると更小平地と性かぬく或も

高き樹小攀登り。足と空めて自在とるいと樹竹小摩叱羅小影影舞る。
さるまが高資が弟子もいその凡るるる不為とて天狗童子と異名あり。
舌を捲て必まぬりのあり。そま古洛小いありあり。朱小交まの赤くあり。墨小
をづけの黒くあり。とゆあまは二藝小傑出ののありと死のき群多く是を藝小
この尋常の人情あるを況て重太郎の口が師と特む高資が愛子といひ人の及ぬ
業さへとるまが置とてまて小称罵で神人たとる信とて。その名近々小
隠さるけまが吾ゆくと門下小進とて武たを勵む郷とのるま。と小放て高
資の重太郎が性質と心程小秘ひ。一時傍へ近づけて汝が力量武藝のいど。
年小似ける元大夫もいふるる。由平生とあり。只管感傲の他い。頓て壯
年小似るるが家とも興い。身とて先世の名を輝をく。未特母敷の飲り。さ
るる。刃を抜入し小敵とるりのい。とて匹夫の勇と。汝が今の拳動あり。あよそ

三軍小將とて士卒の己が手足のめく居る敵の機と察し撃ちて人と服し
四海小その名を奉る。夢向るるで克く難し。今より勦めて兵書とまらひ且
往昔より治乱得失和漢古今の先蹤をも悉く知る小あらず文武二乃小達し
ぬる人とのりべう。是れ小就てのさめぐの話說もあきと律長けまらばまご時小
後さべ。よく心めて勦めよと諭さると重太郎の欣然と領掌し命の執を畏ぬ
在下のそのとを粗心づきそのいひと山野と蒐り鳥獸と逐ふの面白さ小可惜
月日とさう。今より勦めて文の及とそびひんと回答して夫より后の家小居て
替古の暇卓小かき。夜の更閑るまで寐もせず。以書を讀て倦とる。元來伶俐
少年るとバ僅半年修りふして粗兵法の奥儀と探り一廉の壯士ども猶及
びざら小至は。小於て父高資の獨心ふち歡とび閑暇ある毎小ふひをつけ
よく学業と勵まらる。小當下の知縣ある荒砥環八郎と交え一の年齢二

十七八歳あてさせ。重宝あはさま。か。邊郡のゆるも。父祖の代より知縣の
職と主とせう。衣食の乏し。父母の先達て辞世つ。いま。妻女子家
族も。その家譜代の召仕小門野豹九郎といふ。六年齢も増え。芳らひ幼
稚より俱小育て互小ころの隔る。主従も。親へ同胞小猶倍。かて
一日のひる。門野豹九郎の袴羽織も平生より花や小打扮。供人西三人と従
が。西條九郎が家小来。知縣荒砥ぬ。その家の主小密意の相譚ある小
就て在下と差然。在宿あふ。面談と愿ふ。いと殷心勦小演。とて高資
の知縣の使。ゆめ。と。の。此へ。請。の。後と
正。寒暖の色代。終り。女兒糸。茶と汲せ。高杯小在合の菓子。と。棧て
。應。豹九郎の會款。と。且。在。下。使。者。小。ある。と。除。の
。主人。荒砥環八郎。の。あ。ど。く。その。年。も。七。千。小。程。を。け。れ。と。未。と

定まる妻も有り。故小家更の婦々々。平生と吾等も歎く不さるる。男女
の縁のあふ小任せぬりのゆて。専長短さまぐの障も多しといへえふ。その
近郷小育つ處女の郡俚猥雑なて。概小も恠のま且知縣の令臺と稱をさ者
自る。この家の令浪糸花の容儀の元より立挙動も女功も人並あり
むと人の嗜小縁て。ゆて。この全く先生が常の教の能由と令浪は性質
と二ツある不ありて。いと慕りくもああり。愿々の令浪はせし。知縣へ誘り湯
のあり。在下が刃小於て。よる。公私に焼侍あり。ゆつ小許しあふべし
やと顔と見借へ向かふる。當下高資の頼つて。ゆつと存せ小不東ある
女兒のと逐一命ハ畏いぬ。ゆつ。門野ぬ。世俗が常の誘小も牛ハ牛はま
馬ハ馬と馬連とやうんりあり。在下先年と。焼侍あり。師と恃ま
いと未熟る。藝を教へ飢渴の患。凌ぎといども。不不仕の浪人。ゆて。その素性小

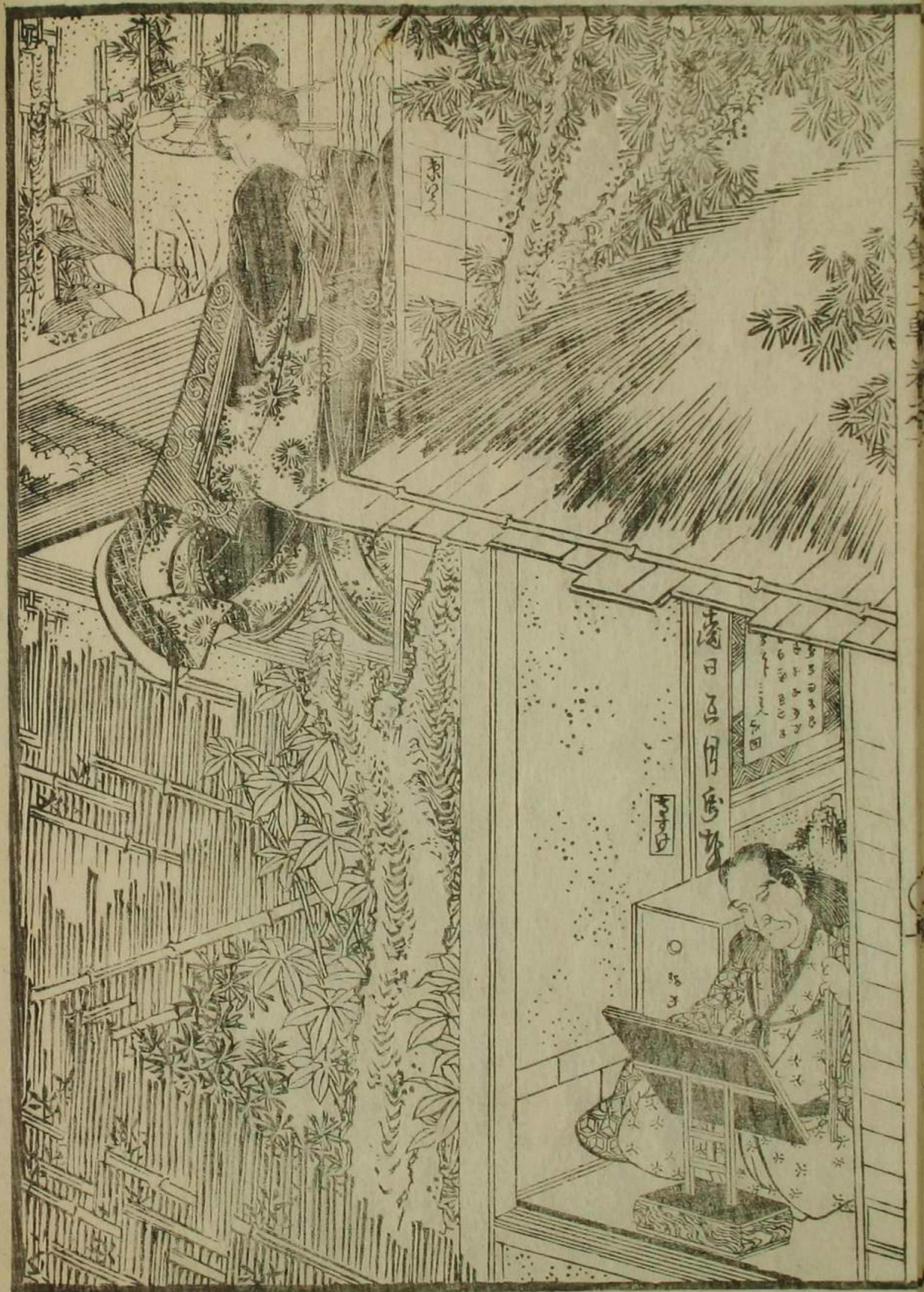
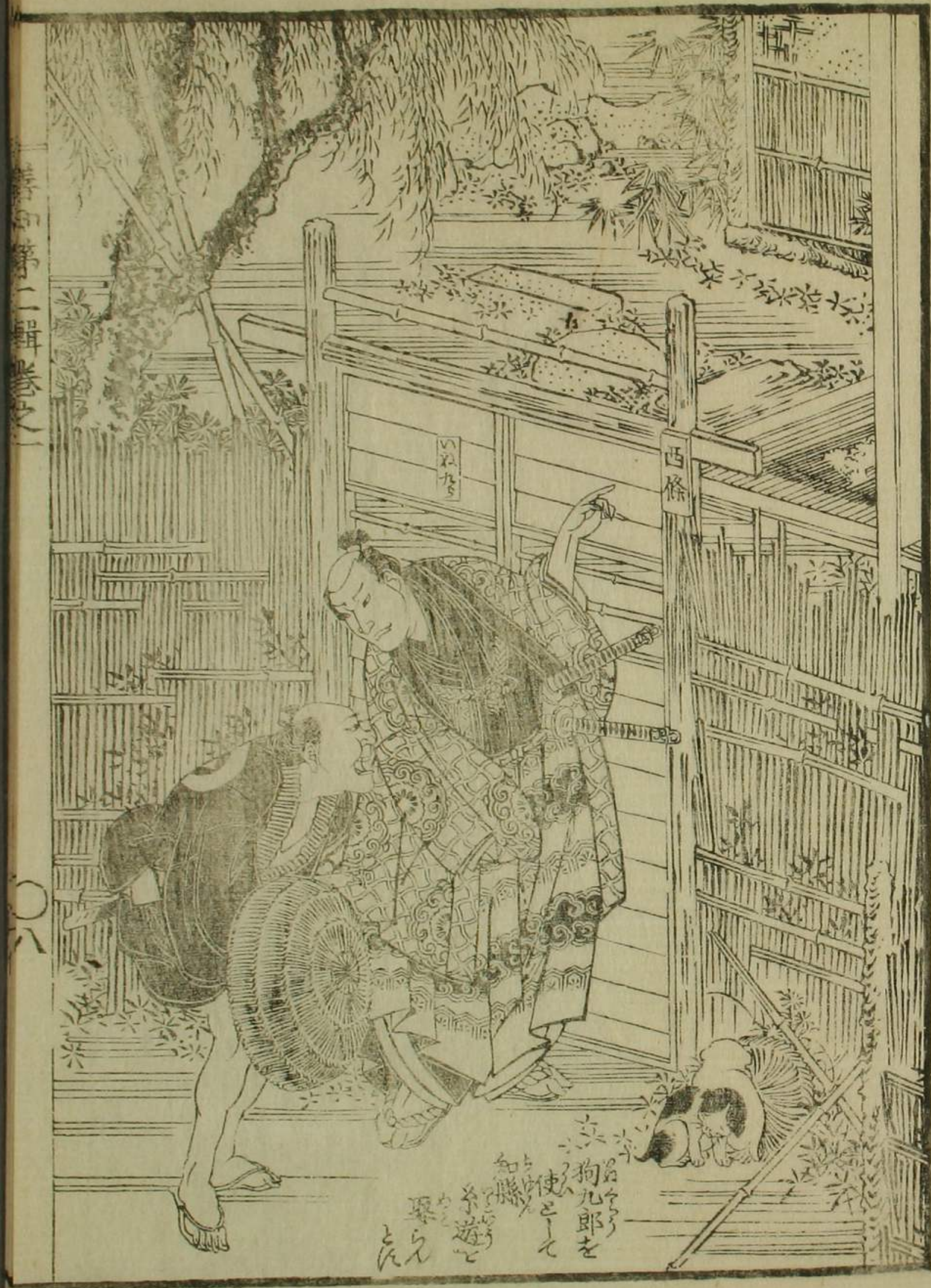
定るる。在下のどが女兒のて。知縣の令臺の合。ゆつ。この只官許
させ人。在下聊栄利と謀。ゆつ。今足下が甘言小羈。ゆつ。兼引とも若輩の
重太郎女兒も俱小肯ふべし。其故の今言と。ゆつ。鉤合ぬと。昔在下
此二のりの秘と。ゆて。武家小仕え。その名跡と。ゆつ。武士の列の在といひ。ゆつ。
畢竟土民小猶劣る。ゆつ。刃の分と。ゆつ。ち忘さ。や望。ゆつ。争ふ命小。ゆつ。
面持と。悦びと。扇笏小。ゆつ。ま。卑下。ゆつ。理あり。赴小。ゆつ。
昔は。ゆつ。名跡と。ゆつ。今武士の列。ゆつ。知縣と。ゆつ。卑あり。ゆつ。令
浪人の。ゆつ。その。ゆつ。不幸あり。ゆつ。仕宿。ゆつ。常あり。ゆつ。御心。ゆつ。小
あ。ゆつ。土民小。ゆつ。宜あり。ゆつ。大小。ゆつ。言葉あり。ゆつ。近曾足下。ゆつ。父子の人。ゆつ。世小並
びる。ゆつ。英雄と。ゆつ。その。ゆつ。小及。ゆつ。國中。ゆつ。其の徳と。ゆつ。称せ。ゆつ。ゆつ。

ので名もあは土民等と目と同一と論ぶべき。この先生の言葉小似ける。その
 兄のあま角のあま令郎も近曾脊丈伸てや大人小ありあは殊小武術小勝と
 あへ末特母敷武夫やと吾も小あふあまて況て足下が心裡の歡びさぞとあ
 けり。ついで後ら家名を興へてはもとまらぬ。曇りの鏡でる如く影ひらる
 りのる。近來相馬の戦ひより。世間静謐小治して四海泰平の化小浴させ九
 武とりて家と興へてはもとまらぬ。戦ふの時の功名を彰す小迅速けれど。
 斯のぬきの泰平のいささ遷遠とあり。僕が主人荒碓の年こそ若けは父祖代
 の職するをりて京家を治め玉司の内のか頭小も慰める。の教多あり。此れは
 這田の縁をこぞ修むる。親と縁者何とありと吹拳して故人の難とといひ遺
 する。傲倖並び到らん。のの堂を覆とせぬ。卑下あふの月の損あり。頃々肯ひ
 ぬへう。といと誇りて小あふと。高資心小あふ。渠粹と左右小よせ慈むより。誘て

この縁縁と修むんとて曾てさく荒碓のの性倭奸牙智のて。その外は縣の高
 と小居りてさく小合のぬりの威とて宛小階の我徒无たの挙動の平
 生小見ゆさる。処渠譬へ積茶張伐が辨と震ひて誘ふとも。只一人の女兒とて
 不良の人の妻とせんや。依りて西の知縣ゆて吾も碓中の地小居るといふ。
 処まをも叮嚀と尽くこととを答む小あつと。転て荒尔うち笑々命の振とてく。
 其理のありる。鬼ても角ても肯ひさく。かくのこも長上と蔑小する。无れありと
 憎とあふ。あつれども命小はひ糸托と館へ来らす。その時一年あらずて吾も父
 り世ま地小居りてさくのむもあつと。びまの女兒糸托はまの人の呼あつ及ひ
 あひのこもあつれども正さまひ指縁の義と深しめふ。そのを懸さまを小辱みけ
 きて。渠の幼推めて母と失ひ在下その流浪とて是と往て家とあつる。をまを
 と推へ廻す。この不來て不圖も人の恵も小月日を送て患苦の中小あつる。

男のやうと育ぬまづ自らりも存ず。そのまへ貧苦ふやく別てやまある御業の
 人あふ物とあれど糸竹のたのみのまゝまゝあり。さうさうの御業を人指まづ付
 ちけん 知縣るごとの令臺とありんるひもあつて不侍せそと一旦の栄木小愛且と
 命の重きより強て此館へあつて一年ありて入限らまゆと断て吾方へ戻
 りみの目あり。ゆゑに吾と父子世るへらの面目ありてこの不居もんや。こと難
 治のまゝまゝ情とあひ廻と小女児の今年十八歳とや生むのつこまづ日毎小入
 弟子の弱冠の弱の身けまづ方小つも在下ぐ眼と竊と思ひ會男のありとも言
 さまび若る筋のありもせごこも無越大りて忽地知縣の怒小觸まごとの
 不と逐まへんと二ツの秘あり。まゝ重太郎の知はあまゝと縮角でありる。さ
 らう腕小筋力あつて武林さへ年齢あり。すのころはゆとあつて心強まる挙動と
 在下ぐ眼あがるな毎嚴敷教戒する。そのまゝ若輩あて思慮まづびける小

知縣の縁者とありんる人自然所を悪と各むる者もあつて心りや。嬌とせまご
 執ひにしがされありん。斯て不敵ののみをいふが縁者とありん。私と公の法成
 執る。知縣争り免しありん。當下在下安閑とて不仕居のありまゝ。此二ツの障
 い心小懸る処あり。まゝ何やう小命とまゝと。是をどうの幾回も此評願ふ他い
 り。まゝ小因て物九郎。まゝ呵まゝとち笑ひ。まゝ足下には及ぶ。軍学者流の
 僻くいふ。総とあり。まゝねと小理とつて。香まゝと辨は智左程だる。まゝ城小
 居る。敵の心中秘密とあり。責取りのあり。まゝけん長譚の逐。小耳の底小見
 え。うり退。飯でて其より。知縣へ委女と演説する。暇まらうとまゝあがり。其後
 も荒ら。小供人引つ。まゝ飯でて。味見送。まゝ九郎高資一人あり。まゝ上京。已か
 居間へぞ入。小ける。當下弟子里見。近平。金井。荷助の兩人あり。昨夜依。処の性。還小
 て憐む。下旅客二人。足乱。離小食。裂。まゝ血小染。て死。て。そのまゝ究て。狼の。不。為



お疑ひあつとこゝろに、頃小のあやう新へる小換断終里て死骸を葬すかくて
その悪獸といふ日小撃て出すべし。と知縣よりして新中の獵夫等之觸示されしが
昨夜の動静多く小三匹の所あるといふを、備五六匹の群來るといふ獵夫等、
もなひかたへ何れもれ旅旅客こそ痛ましきとて、げれと後を變て糸柱の心へ傍へ
膝まう傍せ。その怪々ぬ多ありき。さら山續めて熊狼などの猛獸の柵と六
條へ變て、と人里近く徘徊して旅客をいと嚇して、と變て今ぞ拵めてなり。さら
まを、あつとあつと如何おせん怖るゝ氣を、重太郎由教む呵とうち笑ひ、捕
さのこゝろ怖るひと、變て及ぶ獅子や虎るゝ世に、恐るゝともあやなん、飢小瘦る
山大など、五十四出たりとも、一奉小うち殺し、生皮剥て賣り、とさび、
よぬ金おありなん、然のあやむやと里見金井を、入るりてうち笑ひ、
俱おうち笑ひ、実小命する如くあり。和子、才力の遅しき、虎ごも、
おれりんと

稱讚さこそまあり、あ小あり。今宵波処の林原小、その悪獸のあつと、
打小打殺し、獵夫等が鼻を明せるべし。まよまよ、一與るべし。足下等も、
て手柄と見、あらんや。との小、兩個の勇こ、ち、在下等も、然こそ、
先達を、あふるゝ。吾るゝあ、辞むべき。頼、準備、あ、弱冠共、
高資、一向と出、その校計、無用、汝達、僅の勇、小誇り、悪獸と、
志、い、素く、人民の害を、除く、仁術、小似、と、も、畢竟、
こを、ひき、おさん。如何、といふ、小、知縣、より、既、小、獵夫、
勅、と、て、昼夜、こを、を、寮、あ、一、然、と、汝、達、密、小、
等、が、苦、む、お、く、る、の、こ、れ、を、息、と、知縣、より、
グ腕、ごを、憎、と、怨、ま、で、や、あ、る、べ、き、若、ま、は、損、
父母の遺體と傷ふる小世の胡虜となるべきことと、血氣の勇といひて

思慮あるものせぬる兵書小敵を侮る事あることあり則これら小敵
べ。努力血氣あみ早すそと説諭さまで重太郎も。ま。両個の弟子も。その理
下れ伏し。畏すぬ。回答するす。折る表小人の夢重太郎の在をわやとのい
まそ重太郎の牙と死。誰人ありやと門の走り出ま。この傍の獵夫等二人も
矢と推考え重太郎とる。荒尔や小うち笑。腰を屈め吾們細縣の命を
うけ。今より山へ赴くる。その縁ぬの箇様と。彼旅客と狼が唾ひ殺せ
とを語り。夫小就て時日と移さ。その悪獸を狩べとの觸小ありて夥計へ
初らせ。今宵一夜の山と溪。草とて。狩出さんと。ま。小分撥して。ま
牛がかの狼のあり。二匹あらず。その風吹の先の日小佐久水内の邊。國
司の狩倉ありけ。小年舊狼五頭出て。牙と噬爪と磨列率と目かけて在ひ
思。國司の内。何某ある。人矢継早の名人。て。瞬間小五筋の矢と放ちて

五頭の狼。さ。悉く射ら。う。ど。或ひの腰或ひの背或ひの臂。ど。小中。て。
一頭も斃。ま。りのあり。右性左性小逃去。て。その性方。さ。知。ま。と。突。が。
小小痴負の狼。この所へ道と来て。狂ひま。りの。ま。さ。あ。ま。ら。く。
尋常の狼小。挿。小。令。首尾。く。驅。出。ま。と。由。仕。留。ん。と。の。言。小。來。る。若。
手除。さ。の。ま。す。く。狂。ひ。て。こ。よ。る。あ。た。る。ふ。る。ま。さ。や。夫。等。の。程。由。圖。ら。ま。は。
因。て。吾。們。が。愿。ひ。と。の。い。万。小。一。つ。も。仕。損。と。て。協。い。ぬ。時。の。傍。と。知。る。和。み。が。う。勢。と。
彰。て。力。小。あ。り。て。後。秘。う。ま。と。特。小。來。つ。る。あり。と。突。て。重。太。郎。の。杖。小。肯。ん。と。
ま。さ。い。が。父。の。胸。と。穿。つ。ま。ま。づ。侯。秘。う。が。父。小。一。應。向。て。答。ふ。と。の。い。ひ。入。て。
父。小。向。ひ。ぬ。此。の。の。物語。ま。の。高。資。自。ら。ま。出。て。獵。夫。等。小。うち。對。ひ。送。回。の。あ。の。
く。不。憶。勞。勞。の。と。出。來。さ。る。よ。そ。ま。小。就。て。未。熟。あ。る。紛。へ。助。を。特。む。と。の。ま。ま。の。
逐。一。交。ま。け。少。も。違。北。月。あ。る。へ。う。ひ。ま。る。う。重。太。郎。も。ま。ま。若。輩。と。て。腕。固。ら。ん。

御護才影にござる。脱れしとく。の所を安らふ小世を送る。おそれおのく方の
賜る。と争味畧ふ。おのべき。といへば。獵夫多額を捕そ。安堵せり。吾們
命を受る。さうも小猛き。獸るま。力不及。及をぬ。や。倘二頭も捕獲さ
らば。狼よりも。狩苛き。お縣が。咎と被。て。妻子。後類。居所。立所。小迷。ふる。ゆ
い。て。来ん。う。と。おの。易。記。心。も。あり。そ。ま。お。和。み。の。力。を。假。て。功。と。ま。ん。と。お。の。こ
かく。て。首。尾。よく。捕獲。さ。う。べ。若。干。の。賞。銭。あ。ら。ん。と。村。長。許。う。り。示。さ。さ。る。が。
若。是。と。も。得。さ。う。ん。お。の。和。み。小。半。と。あ。ら。す。べ。と。い。ひ。つ。日。脚。を。作。ぎ。着。て。も。あ
申。討。ふ。由。程。近。う。遅。く。あ。り。と。獵。夫。等。の。暇。を。さ。さ。と。く。お。足。を。早。め。て。ま
去。り。高。資。重。大。と。又。返。り。て。先。小。女。と。留。め。し。の。列。小。干。う。ぬ。あ。る。と。送。回。を
獵。夫。の。女。を。恃。む。こ。ま。を。存。ま。ば。お。小。背。さ。ま。臆。病。と。人。や。談。ら。ん。と。お。小。必
つ。て。い。一。命。と。し。や。山。路。の。あ。ら。い。る。す。と。も。厭。ふ。さ。う。お。あ。ら。ざ。ら。ぬ。お。小。必。れ。と。と。く

再び。特。小。あ。る。と。あ。ら。ぶ。速。お。出。て。本。事。と。入。せ。よ。當。下。こ。の。里。見。金。井。の
兩人。も。俱。お。出。り。と。ぞ。て。三。個。の。歡。び。勇。之。の。音。信。を。俟。お。け。り

第二回

朝の山中。小三士。狼と斬伐

再説。門野。豹。九。郎。の。喘。と。馳。飯。で。主。人。荒。磯。が。あ。へ。あり。彼。処。へ。往。て。命。の。お。ま。さ。
逐。一。小。迷。う。り。が。西。條。兔。お。か。く。美。引。を。箇。様。と。小。ま。う。ま。お。小。より。再。在。下。も
如。此。と。小。理。せ。め。て。言。せ。う。と。果。少。の。三。心。の。障。り。と。り。て。堅。く。否。と。い。う。ま。う。ま。ま
ま。お。お。退。飯。を。在。下。つ。り。彼。老。爺。が。面。塊。を。視。て。お。お。ま。る。お。小。口。と。お。公。と。表。裏
お。表。の。當。家。と。言。ひ。裏。の。大。小。無。さ。る。も。あり。お。小。女。見。糸。遊。の。お。小。勝。れ。い
標。致。た。う。と。お。あ。ら。と。國。司。の。室。と。も。あり。夫。お。携。り。て。小。和。郎。と。ま。う。り。お。せん。を。底
お。と。お。の。我。人。と。も。お。小。の。世。と。怒。る。お。お。の。あ。ら。と。と。と。渠。その。初。め。尾

羽うち枯して。この歩へ来りて。つらつらも鬱悒さぬる。先の刀狩。環八郎が父の情涼く推見二個を俱へる浪人よく世後せよと村長へ内言せし。一月と小門弟死て今もあつく物乞いとも必ぬ程小なりある。年治五弟小ゆあることある。此にちやすの兵法武術を鼻おけりて。才と高慢願ふてもあ死の幸こある。運回の命をま。左右のて美引を全くその初めの恩義を忘まを利小のて走る言語小絶。白痴あり。然りて。運回のてをりて。罰を下さば。世の人。が仔細のあつて。君の色ぬこと。や。淡るらん。さ。び。且。く。心。を。静。め。て。時。并。を。俟。め。粉。重。太。の。勇。あ。ま。て。思。慮。ま。ご。足。ら。ぬ。若。輩。あ。ま。ご。必。獄。度。を。仕。出。さ。べ。し。そ。ま。を。名。と。て。渠。を。罰。し。辛。さ。目。入。せ。て。その。土地。を。逐。出。さ。ば。運。回。の。恨。を。晴。ま。小。足。ぬ。べ。し。在。下。の。方。便。を。り。て。渠。小。遇。を。仕。出。さ。さ。る。計。校。ゆ。い。る。り。と。受。て。荒。破。環。八。郎。の。後。て。赤。松。が。色。

香と茶の如く。何れも。て。子。小。入。を。や。と。千。小。心。の。碎。く。り。の。う。然。る。べ。き。伎。り。も。得。を。必。し。焦。ま。し。景。勢。と。約。九。郎。の。や。曉。下。在。下。彼。処。へ。往。む。父。高。資。小。説。示。さ。ば。渠。も。父。子。も。世。の。結。争。う。否。ま。す。う。す。べ。き。と。も。小。こ。は。半。に。誇。り。小。い。ま。受。て。特。母。敷。心。地。小。あ。り。つ。然。ば。と。て。今。日。約。九。郎。と。遣。り。せ。り。小。あ。り。ひ。の。外。あ。り。返。言。小。勿。心。地。望。と。失。る。あ。り。て。胸。の。炎。の。や。う。せ。る。く。顔。の。色。さ。赤。く。あ。り。ま。ま。く。あ。り。つ。必。業。の。体。約。九。郎。の。尚。小。膝。と。進。め。日。來。賢。く。在。す。ま。ご。も。恋。心。の。弱。く。萬。春。良。雄。の。心。の。裡。お。り。因。り。と。便。る。く。存。ず。ま。ご。も。今。ま。ご。ら。如。く。あ。り。て。不。任。此。う。人。品。と。換。え。云。葉。と。換。て。譚。ぶ。る。と。も。教。ふ。べ。き。の。あ。り。わ。る。を。然。り。て。渠。も。小。内。甲。と。う。遠。さ。る。の。残。ま。り。て。此。後。の。梓。小。假。詫。渠。坐。父。子。小。泡。と。吹。て。腹。と。医。と。を。他。の。あ。り。て。い。い。る。さ。び。や。然。の。あ。り。尚。在。下。が。計。ら。ひ。悪。く。て。梓。整。い。ぬ。と。必。す。あ。り。て。再。遣。り。て。その。回。答。と。受。る。と。根。と。交。り。小。ひ。け。ま。ご。環。八。郎。の。の。時。ま。ご。兎。角。の。

言争り出るを在り。再三再四うち点れ怒り。汝が計らひと悪しと云ふ。あつたあ
らび。あつたあこの本の知縣とて配下小住の一人ども。あつたああつたあつたあ知縣の職の
ある小甲斐あり。汝がいふゆゑ渠も父子素性。姓氏も定まる。あつたああつたああつたあ。渠
竟我と侮る。あつたあん其あつたああつたあ。詮方あり。你も俱お心を用ひ。渠もあつたあ度とせせ
よと。あつたあ狂ひて憤る。あつたああつたああつたあ。あつたああつたああつたあ。あつたああつたああつたあ
面ささる。あつたああつたああつたあ。あつたああつたああつたあ。あつたああつたああつたあ
示し合せ。あつたああつたああつたあ。あつたああつたああつたあ。あつたああつたああつたあ
犯して。あつたああつたああつたあ。あつたああつたああつたあ。あつたああつたああつたあ
詳め。あつたああつたああつたあ。あつたああつたああつたあ。あつたああつたああつたあ
奸謀無道と勸めて。あつたああつたああつたあ。あつたああつたああつたあ。あつたああつたああつたあ
あつたああつたああつたあ。あつたああつたああつたあ。あつたああつたああつたあ。あつたああつたああつたあ

多の人を聚め太鼓を打螺を吹成ひの所。あつたああつたああつたあ。あつたああつたああつたあ
違ひ。あつたああつたああつたあ。あつたああつたああつたあ。あつたああつたああつたあ
警破。あつたああつたああつたあ。あつたああつたああつたあ。あつたああつたああつたあ
荒。あつたああつたああつたあ。あつたああつたああつたあ。あつたああつたああつたあ
こ。あつたああつたああつたあ。あつたああつたああつたあ。あつたああつたああつたあ
夫。あつたああつたああつたあ。あつたああつたああつたあ。あつたああつたああつたあ
小良計。あつたああつたああつたあ。あつたああつたああつたあ。あつたああつたああつたあ
つ。あつたああつたああつたあ。あつたああつたああつたあ。あつたああつたああつたあ
狗童子。あつたああつたああつたあ。あつたああつたああつたあ。あつたああつたああつたあ
是非。あつたああつたああつたあ。あつたああつたああつたあ。あつたああつたああつたあ
家。あつたああつたああつたあ。あつたああつたああつたあ。あつたああつたああつたあ

高資依然と。その縁で約束のみか、も違背あらずと。重太郎とうち振さ
 そのとを伴ふまは重太郎の勇まは。能令地を潜り雲と翔る神通自在の獸
 むりとも何れものうらあまを。俱小糸らんと腹巻鷹當小糸と固め二十四
 挿する矢筒を背負重藤の弓の正中りち日來秘藏の痣丸と号し刀を腰小搭
 へ徐くまを。高資はか子の勇まを打拵とて。合て今獵夫等が若
 説をさひの尋常の狼あむ。黙といひとも大故あり。血氣小早まで過すみ里見
 金井の兩人も俱小姓人と縁で之の契約柄小糸らと。疎り遣人三人を齊しと退
 流とぐりといひ縁せむ畏ぬと回答して。暫く獵夫等を先小多し。山路をさして之出
 たり。初て獵夫等の昨日のど。夫へ觸れしと大勢を拓き集め。その日嘯時の比
 及より山溪を逐る小糸方へ遁き隠きり。さう小其氣ごむる。さうの巖をく
 將さうと山まへ山へ入りて上野を越後の方へ逃れしものあるん。骨折損と

いひえ小糸の結句信るん。とねり小散動や。篝小程の柴をとり加てす処の
 芝生小回坐せり。是よりさへ里見近平金井荷助の兩個も池ありてこ小
 在り。この形勢小望を失あり重太郎小うち對ひて。さうく魏く打拵さう
 して。空しく飯らる。逃むぐ遺憾。宵の夜大人の止むらぬ。さうの死に柄を
 倣へさ小惜さるあて。いと悔めが重太郎の足ひて。然まづ。其支を吾も
 悔く。さうとも父の命をうせん。然りまは山犬も昨夜までさう山小居る。りの
 忽地小他郷へ遁きはせざる。さう。狼のその機を察する。りのといひ吾もが。あ
 ぞ。さう。今より三個密や。小の溪間を廻りて。見らる。といひ
 西側の竹林と。まをさけ。まをさ。小糸。獵夫等。山の
 せ。樹根巖角踏。さ。此方彼方を徘徊。さ。その時や仲秋の月皓と。さ。昇
 て。天の一點の雲も。さ。山小糸。樹の影を移す。仰向。青山。中。天小。覺え

直下せら万俣の碧潭、刃りて削るが如く。元來破る死深山、花川萱、葛桂
の如く人お生え成て、吾滑りて足を近ら。露深うく衣と濕る得、小之個の
英雄も、恨悩とて弓と杖ぬ。近平、後と見か入して、和子、何とをさすも、
英、川と恃とて、かる重地へ進こし、と葭茅、茂りて、生えつと入、以、諸滑、歩、行
お泥む、倘たらめて、彼奴、嘗、お出、命、おの、ありとも、進退、自在、おな、
兼、お、避、ら、ま、て、の、弓、射、る、と、お、公、お、仕、せ、お、空、く、彼、奴、の、牙、お、懼、ら、
の、こ、う、世、の、人、の、胡、虜、と、も、あ、り、や、せ、ん、と、お、ち、お、元、の、強、へ、飯、を、廣、場、へ、
かく、お、て、獸、の、お、來、ま、の、お、の、も、あ、て、飯、を、あ、ん、と、お、の、お、祈、助、の、お、
餘、と、臆、病、風、の、お、ま、ぬ、る、と、お、や、樹、草、の、お、茂、り、進、退、お、仕、
さ、山、犬、あ、る、と、お、の、お、お、る、と、お、あ、る、と、お、足、下、飯、ら、お、歸、り、
更、お、齧、と、阿、容、と、飯、を、と、お、做、さん、と、お、勇、く、お、
一、五

えり。捲るいひて金井姓、今里見、姓が、い、不、の、兵法の、意、小、惚、り、
りの、い、ま、が、その、敵の、動、静、と、己、が、進、退、菟、引、と、お、
と、と、と、ある、お、其、お、め、父、も、對、身、の、獸、と、傷、る、
前、の、溪、河、後、の、崖、割、へ、樹、草、茂、り、路、さ、り、滑、り、
た、と、お、ある、と、犢、の、お、口の、お、
と、磨、と、お、白、浪、の、牙、と、嚙、ま、
當、下、荷、助、お、破、れ、と、お、
本、若、千、種、小、城、と、お、振、ら、
軍、く、お、甲、未、塵、と、お、切、つ、と、
痛、を、越、後、へ、回、り、と、お、
一、五

刀を引ぬきて切て鬼まは狼のその勢ひあやむまけん傍の涯へ飛上りて忽
 地をあらりと叫ひ鳴ると三三声のそのり見近平の公捷さ漢子あるまは捨る
 弓と楸のあふど矢うち番ひまらくと穹絞まで切て放つその矢胡ひと逃び被
 狼が胸板へ香巻せめてまらうけまはらうの以て那ふごさ逆の溪へ轉ると落てその
 まく死でげり折るう吼ると咬つけてや遺まる四頭の狼の葛地小池より紅の舌は
 吐さこの三個が惶むむと袂て二二三小飛でかる勢ひ猛然とて當りがく。
 尾花川萱踏断離踊り狂へ三個のりの傍る樹と楯ふとり。まら小刀を打
 振りて切るひく透あは刺苗むと眼とくをまどと猛獸の荒れ荒れ勢ひ
 ろまは左右あは近付まど荷助の筒小さら對ひる狼と里見小射られの中
 不平の折るまど這回とこの一番小刺當て功を彰いさんと勇氣と励まうかの狼
 が牙を嚙み踊り鬼をと縛ともせびと進み近づき太刀風尖く狼の胴も改も未

塵ふるまこと勢ひ込を切つる刃の光も狼の爪と縮め外と平め避んとよて
 まど勇士の一刀肩骨より背へくけ八寸七切裂ぬ荷助のこま袂て仕損ト
 ころ。今一刀と力と究め振揚んとまら小太刀の切先樹の根へ礮と切地で引
 とも動くは抜ともぬけま頻り不焦燥く曳やとひけバ豈計らんや太刀の
 錐除より五六寸残してあつと折らる。その間小狼の荒らうへ不麻負とあり。
 高吼しつ荷助が腸膽目けて食ひけんとし荷助の今一生懸命たまた伸
 て狼の耳と緊と引楸へ臂力まら母小ひま傍せて拳を堅め突んとすまど五六
 寸る折る刀物の要ふまら。打殺さんと鼻柱ニツニツ四ツ続けおらうてよも
 ひむむぬる。楸まら耳と振放さんと狼とあはう殺さ下と替時猶傍後より友の
 難儀と救えんとてや二頭の狼飛かや。荷助が肩へお御痛うけ項と目づけけや一
 啜小啜殺さんま勢ひあて脱小牙をまんとし荷助のお後と防ごるまど危あ



三十七狼を斬ふ



さむと寝るよりも。重太郎の弛後てかの流るる狼の項首横で曳やとひけはるは小
 猛と狼も重太が勢力小争つ敵せん足と縮めて仰向小引倒さるをけりや應と
 重太の持る瘧丸と取連て狼の喉吭と突貫くかゝ援小十分の力力を借さる
 金井荷助前も。瘧負の狼と敵と小判筒と見えまば里見の一人二匹の狼と
 對牙あけて右へ翔と左へ飛び脱小一匹の洞中を切裂さまば腸鬚と小弱
 まてうんえさまこと二頭の狼奮然と飛つと飛紹え砂と踏と二足も退るが突
 小や豺狼の一獣と見えて。遂ふとまの夜と合まて。こま狐獲て後小止放小人小
 比ととや。かゝ偏の悪獸あるまば打とも突とも輝ともせひ争ひ哮と唾とひ
 重太郎の顧て。俵も執念と悪獸あるまのせり手並とんせて呉人と術と弛
 よつて後ほどをむをまんと難拂へるも処へ例もて大小叫くと。一刀小首うち落
 まとその間小近平の疵つとさる狼と並小打とえくまづ悉く判筒さる重

太郎の腰探探で。海で相國のる小とと。獵夫もがごとくあれたる。竹標さるりのと
 把出。息と吹て吹まま。その音遙の深谷小をひ山彦小昔人のあくあど篝
 の邊小田坐する。獵夫ものさつつけとて。彼方へ狼の出ゆりのと見えさる。い
 彼んと二匹の之あがり。竹標の考と葉小池あり。此処れ其処れと茅と藟と山
 諸深くも尋ね入り。この三個とえつけ。さても月夜達りるまば人もあはれ此処
 等まを公強くも来ありのる。さやとの涉り平常と小山稼さるりのども。運を
 稀とあり。是より奥の狒とあどり。猛と獸の居るぞとて。獵夫も忍れあへり。
 夜中としひねさる小。そのをあつとて悦びあるま。そ竹標と吹まらま。丁の破り小山
 深入と。途方と失ひあり。嗟笑止やと笑ふもあま。面と皺めて呀あり。手時
 西條重太郎先小進に。獵夫小對ひあん。牙も小持ま。そ一人あどと入ま。そと
 来るが。そと空と飯らんとの念る。さ山と溪と三個と探して。えんと分入るが。そ

ちや徑のゆるむて跡へ戻らんとする折も待たざる件の狼を走りこて傍侍の目
 ぞんごことあつ取捲二頭も休まば退治ごまはめ相方の標あれたまてす許等々
 ちやうと。とて獵夫等面え合ひ。三個で五頭の狼と易と退治多と天晴の別のお
 然のまことこの吾們と騙しあふとまえさう。然あくの死骸のある苦ありと四散
 眼こ祝まらせば近平荷助靦然と笑ひあぐその証拠いごく見せん此方どの小
 獵夫等跡あつと二反さう歩とゆけば現あや葎茅暗まて死其処小も此処小も狼
 の血小泥さう死骸あり。是をて獵夫等古と捲現小仍どるうらり泣くも頓来て
 心よ自心終てまことの形勢。年來山の稼の功の入るも山くも箇許小大さる。山
 大とまご祝を嗟心ろりくと炬火近くさうまそ且の誓且の怖まて霎時嘈と
 鳴も止むその中小藤蔓根多準備さる者ありけし即とこと把出とて四足と
 減げるとすまば近平近く進こより。うが射南さう一匹の矢を受あぐとの溪畔と

と隔し其後声もせえねば死さる小能ひあり。その死骸の某が姓名記せし証矢
 ちやうと。とて獵夫等面え合ひ。三個で五頭の狼と易と退治多と天晴の別のお
 然のまことこの吾們と騙しあふとまえさう。然あくの死骸のある苦ありと四散
 眼こ祝まらせば近平荷助靦然と笑ひあぐその証拠いごく見せん此方どの小
 獵夫等跡あつと二反さう歩とゆけば現あや葎茅暗まて死其処小も此処小も狼
 の血小泥さう死骸あり。是をて獵夫等古と捲現小仍どるうらり泣くも頓来て
 心よ自心終てまことの形勢。年來山の稼の功の入るも山くも箇許小大さる。山
 大とまご祝を嗟心ろりくと炬火近くさうまそ且の誓且の怖まて霎時嘈と
 鳴も止むその中小藤蔓根多準備さる者ありけし即とこと把出とて四足と
 減げるとすまば近平近く進こより。うが射南さう一匹の矢を受あぐとの溪畔と

あつた。竹の葉小袴を二氏と惑りて遊食を。返問のつらその恩の方分ぐと報ぐる
の。美痕孫の妙法ありん。口穢るも言ふと。村長もい畏こもる。怖くと返
物。口穢るをいへど。獵夫等が言をと。又二日夜。撲殺して。尚捕獲する悪獸と
かの人々の聲力りて報る。獲て。止む。返問の功の。彼人ふゆあり。物の。少の法を
愿ひを改めて召喚し。その功を勞ひの。彼人くも面を興せん。かの山家の。ゆめあれ。ば
猛惡獸の。荒らら。もの。い。限る。づ。備亦自然の。律ある。とも。彼人等。懐
ば。よ。あ。助。と。あ。ぎ。筋。あり。この。笑。と。笑。い。入。あ。と。あ。り。け。く。云。け。ま。環。八。郎。が。内。ゆ
ま。び。約。九。郎。の。徽。と。白眼。の。ゆ。ゆ。い。う。愚。人。們。彼。等。を。称。し。て。あ。ら。筋。あ。ら。ば。作。等。の。内。と
侍。ん。や。公。の。法。と。執。る。お。縣。相。公。の。あ。も。な。ま。ま。と。結。ぶ。が。ま。い。れ。の。口。後。今。一。云。い。は。て。ま。よ
其。分。の。差。ち。と。居。丈。高。小。町。で。つ。の。ま。ど。村。長。も。い。ち。の。威。勢。お。と。ま。て。何。と。返。す。の。の
あ。頭。と。抱。て。枯。筋。と。と。獵。夫。等。と。俱。小。退。さ。ら。り。か。く。て。重。さ。る。獵。夫。等。四。五。人。村。長

両三人うち連。西條高資が家へ。往。も。昨夜の。淫。淫。て。辛。ト。果。る。惡。獸。と。お。小
退。治。し。の。り。う。癖。び。こ。い。あり。と。わ。和。子。始。め。兩。個。の。衆。も。さ。と。う。方。れ。ら。ひ。ぬ。ん。
夫。小。物。の。始。め。く。う。い。つ。如。く。お。縣。より。数。多。の。賞。法。と。物。り。ら。ば。半。の。奉。らん。積
あり。一。小。今。朝。小。至。王。と。お。い。さ。や。後。五。貫。文。あり。ん。と。い。は。ら。も。少。と。論。ず。べ。き。の。小
あ。わ。ね。る。を。雜。と。請。取。て。あ。り。と。二。日。二。夜。の。山。狩。酒。食。の。料。を。容。易。に。獵。夫。も。多。く
射。放。し。て。功。の。あ。く。とも。貴。い。かり。あ。り。く。五。貫。の。賞。法。で。の。徳。五。文。小。ご。の。あ。は。れ。ぬ。哉。
況。て。この。家。へ。その。半。と。進。らす。時。の。山。稼。の。ゆ。め。雜。さ。る。こと。の。ち。お。縣。より。別。段。小。康
賞。の。こと。と。ま。ま。の。ま。で。更。小。使。入。る。の。こと。箇。様。と。小。町。ら。ま。て。二。り。も。出。び。退。出。せ。り。
ま。の。あ。ま。も。この。這。回。の。功。の。全。く。この。個。の。英雄。が。勲。ある。こと。を。食。て。始。め。の。約。め。差。ら。ふ
べ。ど。少。な。け。ま。も。その。半。二。貫。五。百。と。あ。り。す。請。納。て。よ。と。差。出。せ。ば。高。資。頭。と。左。友
うち。振。り。ゆ。い。の。の。始。め。若。干。の。賞。法。賜。わ。ん。の。觸。る。ま。の。半。と。分。ち。て。共。え。ん。と。い。さ。ま。り

ひのあきど昔早よりて賞禄の半をまうし流る不たひる。況て僅小五貫の賞禄物の
入目不足らぬとの安むとも知して在る。且まこ知縣の家隷ある約九郎がひまをゆるく
吾この土地小住居して二畝の畠を耕さる。三度の食小飽満ぬるの蒼生の賜あるその
恩義の平生小忘まひ然るに大りの在るとき小才よりて報あひ吾もが職あるを争
くのみこの報を索むるに迷小持自さそまを別紙一多くと押戻されても把らぬ高
資の猶云糸を尽し再三回戻せんと顔と接然あつて命小煩ふべ。然りま知縣の
悒牆その後ぬの若干の賞禄とすとの觸あるべ人教妻も雇ひ揚果いらの家和子
まで恃と倅全くと成就のう引も足さる僅の後五目同志ある錢投返してけのまひ
びこふまの協りぬ責務の高下悔しきこのよと。は小知縣を狭し暇もて帰るり

善知安方忠義傳第二輯卷之一終

